

福島第一原子力発電所 物揚場排水路における簡易放射線検知器 (PSFモニタ) の指示値について (一時的に750Bq/L超過)

< 参 考 資 料 >
2021年8月25日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

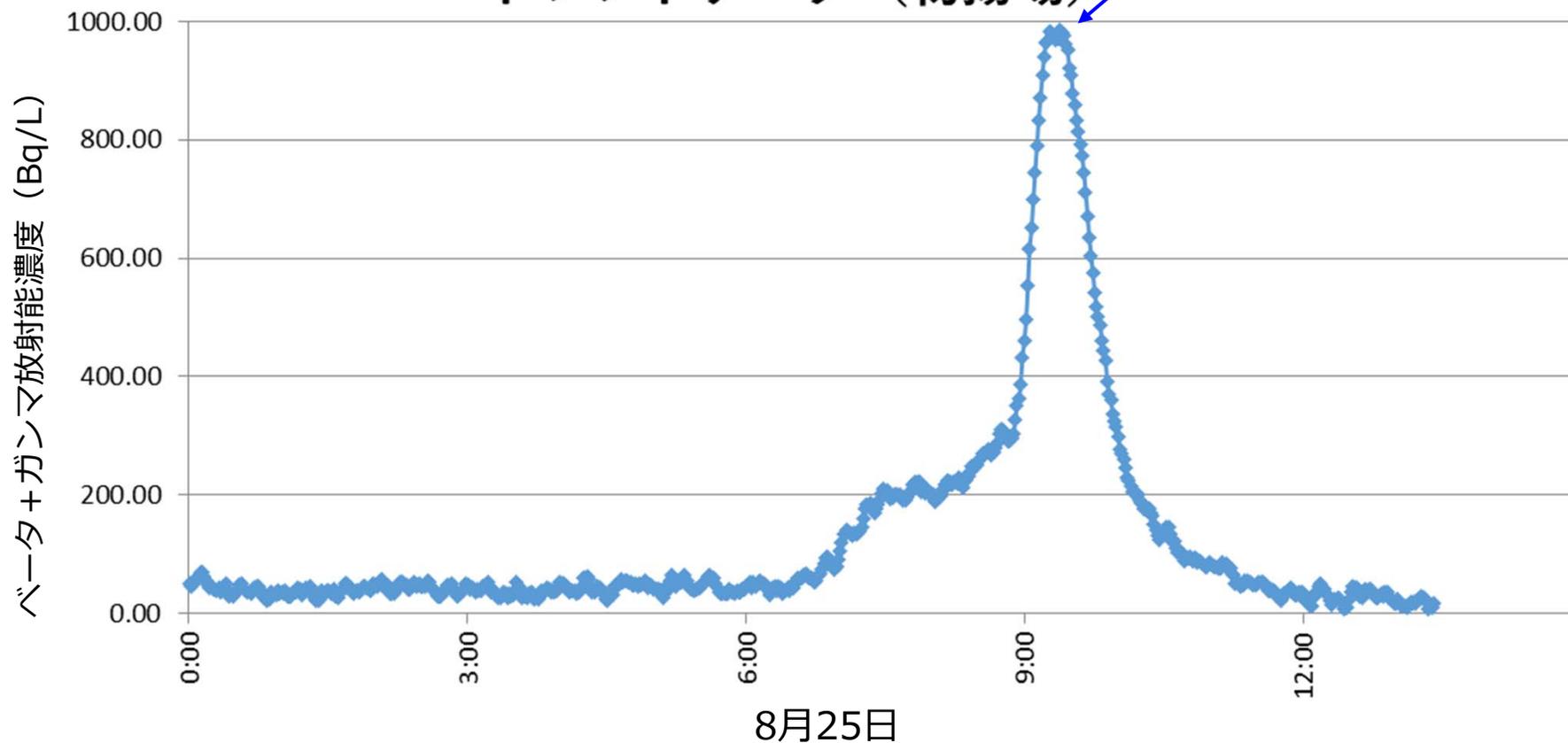
- 2021年3月2日に物揚場排水路に設置している簡易放射線検知器 (PSFモニタ) に高警報が発生した以降、PSFモニタ指示値の監視を強化しています。
- 本日 (8月25日) 午前9時8分、PSFモニタの指示値が、高警報設定値の1,500Bq/Lに対して、一時的に750Bq/Lを超えたことから、サンプリングを実施しました。
- サンプリング結果は以下の通りです。(採取時刻：午前9時40分)
 - ・セシウム134：検出限界値未満 (検出限界値0.61 Bq/L)
 - ・セシウム137：9.6 Bq/L
 - ・全ベータ：25 Bq/L
 - ・鉛214：7.1 Bq/L (測定時刻：午前10時19分、半減期補正未実施)
 - ・ビスマス214：16 Bq/L (測定時刻：午前10時19分、半減期補正未実施)
- PSFモニタの指示値は、午前9時23分に985Bq/Lの最大値を示していますが、それ以降は下降し、現在は平常値を示しています。
- なお、弁別型PSFモニタの全ベータの指示値において、有意な上昇は確認されていません。
- 敷地境界連続ダストモニタ、構内連続ダストモニタ、モニタリングポスト等に有意な変動は確認されていません。
- PSFモニタの指示値が一時的に750Bq/Lを超えた原因は、弁別型PSFモニタにおいて全ベータの指示値に有意な上昇が確認されていないことから、空気中の天然核種 (鉛、ビスマス) が降雨に伴い地表面に降下し、当該排水路へ移行したものと推定 (※) しており、引き続き監視を継続してまいります。

※ 天然核種 (鉛、ビスマス) の半減期は20～30分と短いため、PSFモニタ指示値の降下が早いものと考えられます。

【参考】物揚場排水路におけるPSFモニタ放射能濃度

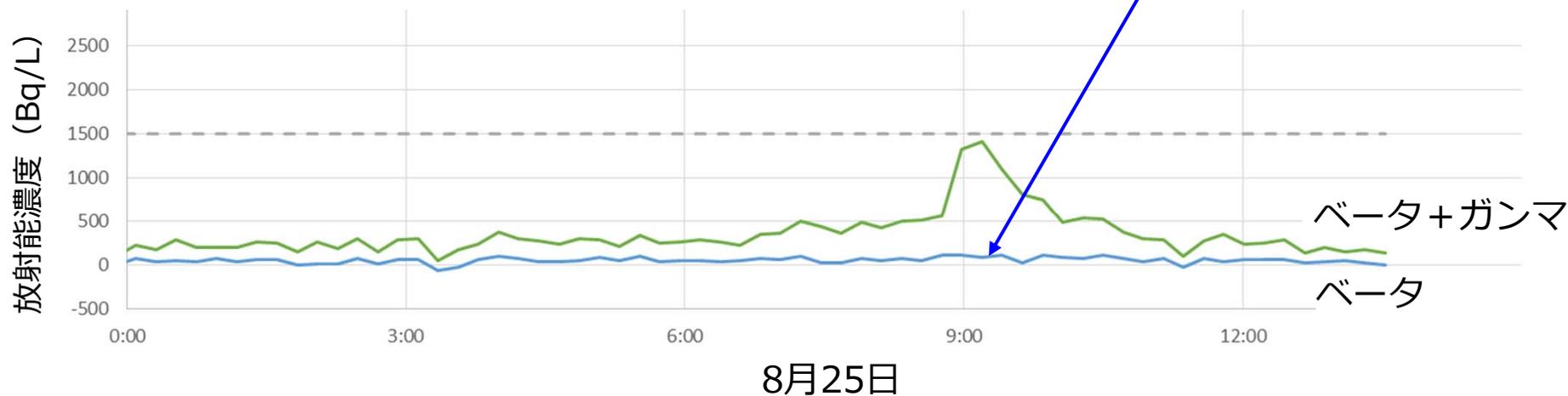
最大値985Bq/L (8月25日午前9時23分)
(参考：高警報値1,500Bq/L)

トレンドデータ (物揚場)



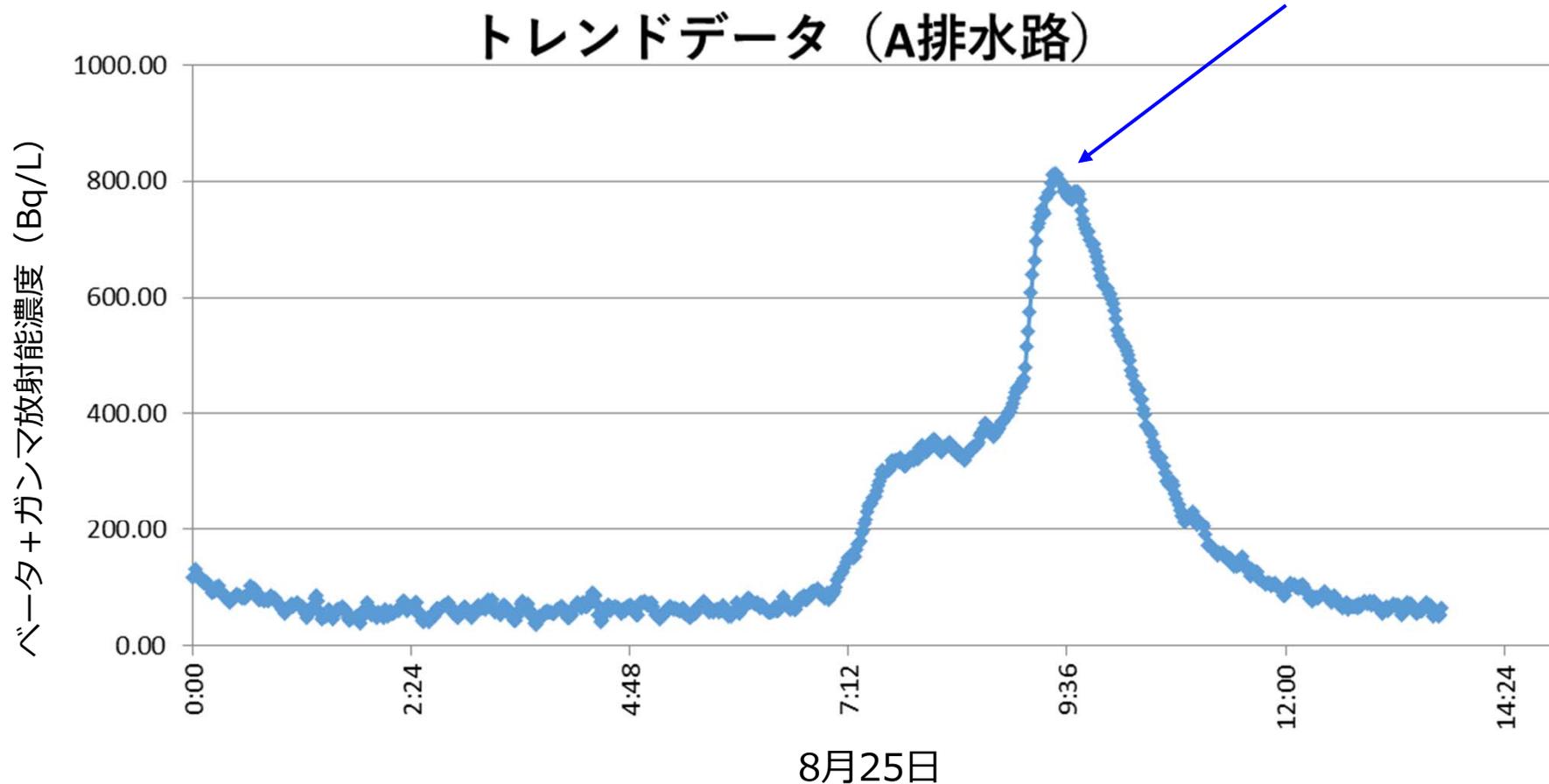
【参考】物揚場排水路における弁別型PSFモニタ放射能濃度

ベータ+ガンマの指示値は上昇しているが、
ベータの指示値は上昇していない



【参考】 A排水路におけるPSFモニタ放射能濃度

最大値810Bq/L (8月25日午前9時28分)
(参考：高警報値1,500Bq/L)



A排水路においても、物揚場排水路と同様のトレンドを示しており、降雨による天然核種の影響が生じたものと推定